

少人数
双方向性

農作物開発・品種改良における ゲノム編集の利用可能性

2020年のノーベル化学賞を受賞したCRISPR/Cas9は、非常に簡便に扱えるゲノム編集技術として農業・水産・医薬などバイオ系の幅広い分野で活用が期待されています。農業生産における利用については、ゲノム編集は非常に効率よく農作物の開発・品種改良を行うことができるツールと言えます。今回の技術コミュニティラボでは、ゲノム編集とはどのようなものか、ゲノム編集の利用に関わる制度、すでに開発が進んでいるゲノム編集作物、それぞれについて簡単に紹介します。また、ゲノム編集でどんなことができる可能性があるのか、担当教員がゲノム編集を利用して実施中の研究を交えて解説します。



島根大学 生物資源科学部農林生産学科

情報提供 渋谷 知暉 助教

研究のPR ポイント！

- ✓ ゲノム編集技術とはどんなものを解説します。
- ✓ 国内で開発が進んでいるゲノム編集作物について紹介します。
- ✓ ゲノム編集による品種改良のアイデアを紹介します。



日時 2021年7月28日(水)13:30-15:30 (発表1時間、質疑応答・意見交換等1時間)

会場 Zoomによるオンライン開催

対象 企業、自治体、研究機関、学生、支援機関（10～30名程）

お申込 下記webフォームにてお申込み下さい。
<https://www.leaf2.shimane-u.ac.jp/enquete/no/lab20210728>
恐れ入りますが7月26日（月）のam11時までにお申込み下さい。
お問合せ：島根大学地域未来協創本部 Tel:0852-60-2290

